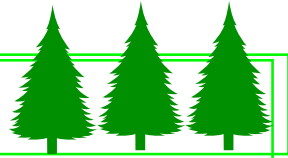


みつぎ便り



第241号 10月号 令和9年10月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコボリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



フクロツルタケ

フクロツルタケは、白っぽい色をした傘の直径が五〜十cm、高さ十〜十五cmのキノコです。名前の由来となる袋状の傘がベレー帽のようで、いかにもキノコらしいシルエット。キノコのイラストを描くときによくイメージする形ですね。そのかわいらしさと裏腹に、アマトキシンと呼ばれる毒性分を含み、死亡例もあるほどの猛毒きのこのため注意が必要です。

ただ一方では、周囲の樹木と共生関係にあることが知られており、地中に張り巡らせた菌糸を介して土壌養分を樹木に与えることで森林環境の維持に貢献しています。植物は単独で生きるよりも、きのこ共生すること、より多くの水や栄養を吸収できるようです。

毎年出るわけではありませんが、今年は雨が多いので特に生えることが多いようです。見次公園のように公共の公園内で植物採集をしてはいけません、特にキノコには決して手を触れることのないようにお気をつけください。

(朋)

アメリカカタカサブロウ

アメリカカタカサブロウはキク科タカサブロウ属の一年草で、南北アメリカ原産の帰化植物です。田んぼのあぜ道、水路、湿り気のある畑や道端などに多く見られます。繁殖力が強く夏から秋にかけて白い小さな花を咲かせ、たくさんの種子を作って広がります。

日本在来の、タカサブロウに似ています。アメリカカタカサブロウは種子に翼がないことや、葉の形など



に違いがあります。タカサブロウの葉の幅は、比較的広くなる傾向があり、アメリカカタカサブロウはタカサブロウに比べて葉が細長く基部に向かって幅が狭くなります。

タカサブロウは日本在来種ですがアメリカカタカサブロウは熱帯アメリカ原産の帰化植物で、日本では1981年に初めて確認されました。

植物からは黒い染料を抽出する事ができ、髪染めなどに使用される場合があります。全草に有毒成分を含むことが報告されている為取り扱いには注意が必要です。

(千)